卒業生によるボランティア活動グループ"わ"会報
# 情報ぎゃらりー
第４５号

情報ギャラリー第４５号
**発行日**　２００９年1月２７日
**編　集**　グループ“わ”広報部
**発行者**　加藤　勇治
**発行元**　ＮＰＯ法人社会還元センター
グループ“わ”
TEL (078) 743-8101　FAX (078) 743-8103
Ｅメール　group-wa@wa-net.jp

## ２００９年の年頭に想う

理事長　加藤　勇治

新しい年を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

日頃はグループ わ の活動と運営にご理解とご協力をいただき、役員を代表して深く感謝申し上げます。昨年５月郷前理事長の後を受け、理事長の重責を担ってから約８ヶ月間“わ”の事業運営に全力投球して参りました。新年に当たり考えてみますと、グループ わ に期待されていることには誠に大きなものがあります。

その１つには高齢者の「健康・いきがい造り」と「手厚い介護(助)ケア」の問題です。

人々が長生きするようになり、急増する高齢者のこうした問題は今や社会問題といえます。要介助、要介護状態に至る前の高齢者の健康づくり、いきがい造りは今や深刻です。

現在高齢者に普及しているニュースポーツ(グランドゴルフ、ローンボウルなど)も有効ですが、要介助、要介護高齢者への各種ボランティア活動、例えば買い物や通院の介助、植木・花壇の手入、清掃・洗濯といった日常生活のケアボランティアも各種介護ボランティアや福祉施設の友愛訪問とともに健康増進、いきがい造りの手段として見直されています。高齢者が自らの健康増進・いきがい造りのために要介助、要介護高齢者の手助けをすることが社会的に歓迎され、要請される時代となっています。

２つには子どもの健全育成の問題です。昔と異なり核家族化が進み、祖父母と暮らした経験のない子どもが殆どの世の中です。学校でも、家庭でも子どもがのびのび育ちにくい環境にあります。自己中心的で我慢することも、努力することも身につかないまま育ち、自分が気に入らなければ相手を攻撃する若者が増えました。学校では教えられないことや昔ながらの日本の心を地域ぐるみで子どもに伝え学ばせなければならない状況にあります。経験豊かな熟年世代の人たちが思いやりの心をもってこどもに係わり、学校を支援する地域ぐるみの輪に加わることが最近特に求められています。

３つには環境教育の問題です。ご高承のとおり「地球温暖化」や「省エネ」といった環境問題は今や世界的テーマとなり、諸外国では数年前から一般家庭でもムダをなくし、エネルギー消費を最小限にする努力が行われています。昨年神戸で開催された環境サミット(環境大臣会合)で環境問題が空前のブームとなりましたが、環境保全や省エネ対応の取組みが今や一般家庭レベルで叫ばれています。「もったいない」の言葉が身についている私たちの世代が子ども達にムダをなくすこと、環境保全の重要さを訴え続けねばなりません。

経験豊かなシルバー人材を擁する わ の活動は今後ますます重要性を増すに違いありません。一人でも多くの方がボランティア活動に加わり、ともに汗を流し、ボランティア先に喜んでいただける、そんな「環境づくり」「基盤造り」に新年度は本格的に取り組みたいと考えています。

今年度の主な事業の取組み経過と今後の予定について下記に述べます。

### こうべ環境未来館

一昨年公募で受注した企画運営業務の委託業務は今年度が２年目、運営は全て順調に推移しています。今年度は５月の環境サミット神戸開催を機に市主催各種環境関連イベントにも積極的に協力する一方、市内各種団体向け「家庭版エコマニュアル」出張説明会実施に際し、各協力他環境団体への講師派遣手配など市の事務局としても積極的に機能発揮しています。また来年度企画業務担当責任者勇退に伴い、後継企画業務体制への円滑移行にも努めています。事業の円滑運営に向け引き続き会員の皆様方のご協力をお願いします。

### 電話相談委託事業

神戸市こども家庭センターでの「児童虐待夜間休日相談ダイヤル」（平成 17 年 7 月受注）、神戸市教育委員会の「いじめホットライン」(平成 19 年 3 月受注)の両電話相談業務はともに大きなトラブルもなく順調に業務遂行中です。今後も委託先の信頼を裏切ることがないよう業務体制の拡充を図って参ります。

（次ページに続く）

（前ページから続く）

**須磨一ノ谷プラザの管理運営**

本年度は管理運営２年目。運営体制を再整備し、稼働率アップと収支状況の改善に努めて参りました。関係者の尽力で少しづつ課題を克服し稼働率は目標の２５％を超える水準となりました。運営はほぼ順調に推移しており、年度末には採算経営をほぼ維持できる見通しです。新年度も事業を継続する方針ですが、利用者拡大に向け会員の皆様の更なるご協力をお願いします。

**学習支援事業**

本年度の学習支援要請校は現在 64 校（前年度 51 校)、支援校 38 校（同 30 校)、延べ支援者数 270 人（同 267 人）と支援実績は着実に伸びています。急増する特別支援への対応が課題ですが、新年度も引き続き支援体制を増強し市内各校の期待に応えて参ります。

**パソコン講習会**

平成 20 年度は残念ながら在校生向、一般市民向講座共受講生が減少し、折角の講座も低調です。来年度は運営体制の見直しを図り、パソコン講座の人気回復に努めます。

**(財)長寿社会開発センター助成事業**

平成 20 年度も「伝承文化、環境保全、健康増進」をテーマに年間１７のイベントを開催し、親子連れや熟年者層を対象に楽しみながら学んでもらっています。来年度も企画面で創意工夫を加え事業を継続していく所存です。

**フルーツフラワーパークとの共同事業**

本年度も七夕祭り、里山探検、昔あそびなど年間５～６件のイベントをフルーツフラワーパークと協同実施中です。市民の皆様と心を通わすイベントとして好評を博しています。その他観光シーズンの土、日、祝日には園内ガイドを継続実施中です。

**本部企画委員会の取組み**

本年度本部新設の企画委員会では上半期に「運営委員会規約の改正問題」「役員選考内規の一部改正問題」を検討し、下半期には懸案の「区会活性化対策」について集中審議中です。来年度は改善方針が纏まった項目から逐次具体化していく方針です。

**第６回定期総会について**

本年度の定期総会は５月 26 日(火)を予定しております。会員の皆様には万障お繰り合わせの上ご出席くださいますようお願い申し上げます。

新年のご挨拶の終わりにあたり、会員の皆様はじめご家族の方々が健やかで充実した一年をお過ごしになられるようお祈り致します。　以上

## 第２回『学習支援の集い』開催さる
### 子どもたちの学習支援委員会

日時　平成 20 年 12 月 15 日(月)
　　午後１時～4 時 30 分
場所　ＫＳＣ学習室１・2，３・4
出席者　子どもたちの学習支援者(３０人)
　　学習支援委員会(１１人)

1，はじめの全体会　司会　井上　堅委員

**加藤理事長のあいさつ**

皆さん今日は、ちかごろは核家族化がすすみ、社会の変化にともない、子どものいじめ、虐待、学力の低下が指摘されるなど、子どもがのびのびと育つのが難しい環境にあります。

このような時、地域、社会の大人が積極的に係わっていくことが大切です。社会奉仕に取り組む「わ」にとって子どもたちの支援にとりくみ、多くの支援者が係わって欲しいと願っています。

今日は小学校、特別支援学校の支援活動にとりくんでいる皆さんが、分科会、全体会で積極的に発言し、お互いに経験を交流して、様々な話し合いの中から、元気を貰うことを願っています。

**松本教務リーダーのあいさつ**

皆さん今日は、わの皆さんが学習支援にとりくみ、熱心に取り組み、また努力している姿を知っています、事務局としても感謝しております。

在校生の地域交流活動では、現在６２の地域交流活動グループがあります。　そして、小学校校区（５０校）で地域交流をすすめています。

わの学習支援、特別支援は小学校、特別支援学校３８校で、在校生の地域交流とあわせて９０校近くになり小学校、特別支援学校の先生方からも感謝されています。

いまは様々な事情が学校にあります、このなかで在校生の地域活動、わの学習支援が大きな力となっています。さまざまな困難があろうと存じますが、子どもの成長のためよろしくお願いします。

**中沢委員長のあいさつ**

ご苦労様です、活動の状況ですが、４年前は１８校だったが、今年は３８校に支援をしている。小学校からの支援要請は６４校になるが、まだ全部は支援できていません。

最近は、特別支援の要請が増えている、我々としては特別支援を十分に知らないので、教育委員会と話合いをもって、内容をもっと知って取り組み続けたいと思います。

また、学習支援委員会内規を作って配布しています。

（次ページに続く）

（前ページから続く）

今日は、４つのグループに分かれ十分に話し合っていただきたい。そのあと、全体会で報告と討議をしましょう。

４つのグループの座長を紹介します。第一グループは大塚委員、第２グループは神林委員、第３グループは川上委員、第４グループは渡邉委員です。

2、分科会（４グループ）の報告（要旨）

第１グループ　　大塚座長

忌憚のない話し合いの中から、世代間の文化論の世界にも踏み込んだように思う、つまり教育への支援はまた今の親の世代とかかわる問題でもあるともいえるし、さらには我々の孫の世代をよく育てたいという大きな視点からの取り組みといえます。

そうであれば、シルバーカレッジに在学しているときから、そのような視点、意識で学習支援に取り組むことが大切だと話し合いました。

つぎに、我々の支援活動が本当に小学校の教育に役立っているか、この点をつかむためには、現場の先生と話し合うことが必要であると話し合いました。小学校によっては、先生や校長先生、教頭先生と話し合って改善をすすめているケースもあるが、具体的な話し合いを持たないし、持っていないのが現状である。

第２グループ　　神林座長

このグループは幅の広い支援をしている人があつまった。図書館の支援、環境教育、学習支援、特別支援に取り組んでいる。

そのなかでの共通している問題点をあげてみたい。

さまざまな活動の中から出てきた疑問点、提案したいことをどのように先生方に伝え話し合うかという悩みがある。我々としては、お手伝いであるという立場を踏まえながらも先生と互いの困難、悩みを話し合いたいと願っている。

また、二人で支援に取り組んだり、たがいの事例研究会、体験交流をしたいという意見もでた。

第３グループ　　川上座長

我々はまず体験交流の場にしたいと話し合った。なかよし学級に支援にでている人からは子どもとの交流が楽しいと発言が多かった、ただ、体力がなくとびかかられたり、リコーダを教えられないので困るという話も出た。

普通学級では授業についていけない子どものサポートが大変ということ。

しかし担任の先生を通じて感想文をもらったり、子どもに服を着せるよう頼まれたり、またＳ小学校に支援に出たいがどうしたらよいかなど話がでた。交通費もでないが給食が出る学校もあるとのこと。学校によって差があるようだ。

第４グループ　渡邉座長

第４グループは、前段では自己紹介を中心に話し合った。いろいろあるが、ボランティアとしては学校の助けをするのが中心で、保護者との関係及び先生との領域問題までは立ち入らないことも話し合った。

子ども遊びと戦争体験の学習に取り組んで、大変良い反響で楽しかったという発言があった。

後段では、結論として、「学期が終わると、担任の先生、ときには校長、教頭先生と話し合って成果を確認するといったシステムが必要だ」ということを確認した。また、支援活動について教育委員会と話し合ったり、このような支援者の集いに先生方が参加することも必要だとの意見もあった。

3、まとめの全体会（質疑応答）　　司会　井上委員

中沢委員長の話

全国的に文科省の指導により学校支援が本格的に展開されることになりました。登下校、図書館、授業など広範囲にわたるようです。

質問①　学習支援の学校側の評価を知りたい、また担任、校長、と話し合いたい、もっと校長会に説明してほしい。

中沢委員長回答　教育委員会には資料を渡しています。全校長にも勿論、教育委員会を通じて資料を配っています。

学習支援について小学校からの苦情はありません。我々からの苦情は２，３ありましたが、委員が出向いて話し合い、いずれも学校サイドのコミュニケーションの不足が理由でした。あまりひどいところは支援を断った例もあります。

質問②　二人セットでの支援、校長先生や先生が支援者の集いに参加するのはどうか。

中沢委員長回答　原則としては一人単位での支援ですが、戦争体験とか昔あそびなどは多くの支援者が必要ですので、代表の方による準備と学校との打合せが欠かせません。

支援者の集いに教育委員会の人や校長先生に出席して貰うには、やはりはっきりした目的と準備が必要でしょう。

## 第３回「学習支援の集い」開催ご案内

1,日時　平成 21 年 4 月 21 日（火）13；30～16；30
2,場所　神戸市シルバーカレッジ　2 階学習室
3,主な議題　①平成 21 度の活動について
②グループディスカッション
③その他の情報交換・連絡
※登録者に限らず一般の方の参加を歓迎します。

## KSC 開校 15 周年記念特別講演会
## 『愛し愛されての人生
## ＝今にいきる賀川豊彦』

神戸市シルバーカレッジ開校 15 周年を記念し、カレッジが主催し、グループ"わ"と KSC 同窓会が共催して去る 11 月 16 日カレッジホールで、　神奈川県立保健福祉大学名誉学長阿部　志郎先生（「賀川豊彦献身１００年記念事業」東京プロジェクト実行委員長））をお招きして特別講演会が神戸プロジェクト実行委員長の今井学長の開会挨拶で開催された。

講演要旨　　（松本容子教務リーダー記）

**第一の時期　　愛される**

こどもは愛されるべき存在として生まれてくる。愛されてこそ愛する人になるといわれるが、賀川豊彦は神戸市で生まれ、幼くした両親を亡くし、賀川家に引き取られている。

**第二の時期　　愛する**

弱い人、異質の人を排除する傾向は昔も今も同じだが、賀川豊彦は違った。21 歳の時、結核で余命いくばくも無いと診断され、その命を隣人に捧げようと神戸市のスラムに入る。それはクリスマスの時で来年献身 100 年を迎える。そこは、二畳一間に 5～7 人家族が住み、トイレは 20 軒に一つだった。スラムの人々のたくましさを知り、必要なのは救貧でなく、お互いに自主的に助け合い、生きる道を目指していくことだと考え、それを実践していく。

**第三の時期　　再び愛される**

晩年の自立とは、最後まで人生の完成を目指して、人生の山を登り続けることであり、愛されるとは、その自立を支援されることである。その先に死がある。賀川豊彦は、死ぬ間際まで活動を続け、徳島で伝道中に倒れた。

賀川豊彦から学ぶこと、それは「助け合い、支えあうことの大切さ」である。私たちには、21 世紀を平和と愛に満ちた世紀にするために、若い人、子どもたちに伝えていく責任がある。（以上）

## “不思議な縁の結びつき”

司会　（福 10-東）芳賀　順子

2008 年 11 月 16 日、カレッジホールはほぼ満席の中、神奈川県立保健福祉大学名誉学長・阿部志郎先生をお迎えして、貴重な話を拝聴した。お姿からは 80 歳を超えた方とは思えぬ精悍な眼力と隅々まで響く張りのある声、澱み無く立て板に水が流れるような話しぶり、休憩も取らず 90 分の講演はアッと言う間に過ぎて、出席された皆様の心に残すだけでは惜しい様に思いました。世界の国々を回られた豊かな経験と明確な論旨で、鋭く迫って来る話の内容は、広く深く示唆に富んでいました。

「盥（たらい）から　盥（たらい）に移るチンプンカン」小林一茶

混沌とした人生の中母親の愛に触れる事の大切さを説く事から話は始まりました。人は産湯に浸かり湯潅式で沐浴して次の世に旅立つ。インドの難民テント村を訪ねた時に大切な飲み水で子供の体を洗う母親に眩しい姿を感じたといいます。自分は食べずとも家族に食べさせる母。帝國ホテルの料理長に訊ねた時に言われるには、一番美味しい料理とはお袋の味だという。またタイ国は不登校の子供が居ないという。それは母親がしっかりと子を育てているからであろう。一人の孤児に１００人のヴォランティアの手が差し伸べられ、市民が親代わりに子供を育てる。その様な社会が成熟した社会と言えましょう。

「白金も黄金も珠も何せんに勝れる宝子にしかめやも」と山上憶良により万葉の時代から詠われている。

日本の家庭の根底にはこの様な精神が在ったはずです。岡山で次々と孤児を預かり養育をした「石井十次」の、日本初の孤児院の話をされて、その徳を讃えられました。

賀川豊彦は、愛されなかった子供時代がありましたが、賀川を愛した宣教師のマヤス夫妻がいました。賀川は、人を信じる事を学び、神を信じました。そして誰にも増して人を愛する人になりました。人に愛された人は、人を愛する人になります。人間は自分を最も愛しているものですが、自分を大切に出来る人は、人をも大切に出来るものです。神戸のスラムの中に賀川豊彦は若き身を投じて、スラムの人々を救い共に生きる事を選ばれました。

「死線を越えて」の本の印税全てをスラムの再生に使いました。賀川の献身は「涙の 2 等分」にも書かれています。賀川豊彦は人々が出資しあって、共同組合を作り皆で助け合って生活を高めていくこと

（次ページに続く）

（前ページから続く）
を進めました。関東大震災を期に、セツルメント運動を展開していきました。
　日本人の多くはポックリと死にたいと思うでしょう。ヨーロッパの人達は、最後まで人間としての尊厳を保ってホスピスで終りたいと願っています。米国のある老人会での事です。会の名を「人間的成長」といいましたが、其処では遺言書の書き方を学んでいました。アメリカ社会では、現役時代に社会的成功を収めた人は、その資財を次の世の人々に役立つように残す、図書館・美術館・コレクションの寄贈・大学創設資金・高齢者施設・音楽堂・公園・奨学基金等など、公共施設の充実の為に献金します。成熟度の高い社会と言えると思います。賀川豊彦は、米国プリンストン大学に留学して自然科学・欧米の福祉の在り方を見聞きして帰国されました、そして、人々を心から愛した人でした。神戸に生まれ、神戸のスラムを活性化させて、農民学校を作り、国民保健福祉事業を興こし、労働組合の先頭に立ち、灘生協を立ち上げ、「一人は万人のために、万人は一人のために」というスローガンのもと、人と人が手を携えて協力をして自立をしていく事を教えました。自立とは自分自身の完成を目指して一歩一歩登り詰めていくことでしょう。助け、助けられる事がサービスです。聖書に２人は１人に勝るとあります。人を隣人を大切にする、家族・隣人との関係を大切にしていく事が幸せを運び豊かさを築きます。
愛し愛される、人格と人格が出会い、人と人が出会って何を学ぶかが大切です。神戸には、シルバーカレッジという素晴らしい生涯教育の場があります。この様な設備カリキュラムの整った高齢者の学びの場は、世界の何処を探しても他に有りません。このしあわせの村の各施設に集う老若男女に良き学びと癒しの空間が提供されている事に全国の人々が注目しています。皆様はその手本となられる方々です。賀川豊彦は、結核という病を抱えながら最後の最後まで人生を歩き通した人でした。人に対して畏敬の心を持っておられました。そして日本の福祉社会の骨組みを立ち上げていかれた方でした。講演の全てをお伝えするには筆不足で難しいことですが、ここに、阿部志郎先生の話された事を思い出すままに書きました。この様な機会を頂きました事に感謝します。阿部先生と私は、この時初対面でしたが何と私達夫婦と 20 年来の友人である Hallam J.Shorrock 氏と深い知り合いであった事、私達が出席した国立教会での Shorrock 夫妻の結婚式で賛美歌を歌われた方が、賀川純基（豊彦さんの長男）氏であった事を知り本当に不思議なご縁を感じました。また、Shorrock 氏の奥様・深田康子さんの父上が賀川豊彦と神戸新川にて共に働いたことを知り、その後東京松沢教会（賀川豊彦）、国立教会（深田牧師）にて宣教の仕事を共に励まれたことを知ったのでした。
それはこの特別講演の司会をする数日前突然に、カリフォルニアから東京に来られていた Shorrock 夫妻からの電話で知った事でした。又この特別講演会に出席されて居た孫の賀川督明氏とお話するとMrs.Hellen Shorrock（前夫人）をも共に良くご存知だと知りました。その様なこともあり、2009 年の私の学びのテーマは、賀川豊彦の語り部としての学習をする事に決めたのでした。
灘生協本部があり、日常 Seer で買い物をする東灘区の住民としましても、日頃の感謝を込めてよく学び、良き事をよく伝えたいと思います。

## 情報ぎゃらりー編集部からのお願い

情報ぎゃらりーでは、会員相互の親睦を図るため、皆様が興味と関心を持ちそうな記事、情報提供や役立つ記事などの投稿をお待ちしています。
ボランティア報告、区会部会短信などを具体的に簡潔にまとめて 400 字程度にして、出来るだけパソコンで送って下さい。手書き原稿でも結構ですが、必ず郵送でお願いします。締切日は特に指定しません。但し、電送、郵送とも「情報誌原稿」と明記してください。(未達の場合があります。)

# 長田区会

## 初めての絵画展

長田区会長（美８）　松本　治司

ボランティアの事で長田区役所へ相談に行ったときのことだった。区役所に勤める知人から、「松本さん絵を描くと聞いたが、一度行ってみたらどうかと言って紹介されたのは「長田公民館」だった。長田公民館は生涯学習の場として、地域の老若男女が集まり、ダンス・パソコン・コーラス・書道など約 60 のグループが登録されているが、その中に「水彩画サークル」がある。

このサークルには指導員が居ないので毎回静物画ばかり描いているようだと知人が教えてくれた。しかし、とくに紹介は出来ないので勝手に行ってくれと言う。指導員の資格も無いわたしがどうして教室に入るか思案したが、昨年の 6 月に自己紹介のつもりで、自分の作品を持って皆さんに会いに行った。しかし、思った通り冷たい反応で、皆さんはチラッとわたしを見たがその後は全く無視された。この教室は毎週金曜日の午前中が練習日ですが、無視されながらも続けて 3 回訪問した。その内に少しずつ私の話を聞いて呉れるようになってきた、嬉しかった。これでボランティア活動の場がまた一つ増えたと思った。

しかし、私には絵画を指導すると言うボランティア活動の他に別の目的があった。高速長田駅と地下鉄長田駅の連絡地下道に「さるびあギャラリー」と言う展示場があるが、この展示場に生徒さん達の絵を展示したいと言う思いがあった。そして 9 月に入った頃、生徒さん達にその思いを話した、また展示の絵は静物画ではなく風景画で統一する事を話した。勿論皆さんから猛反対された。殆どの人は風景画を描いた事が無いという。しかし、その後少しずつ説得しながら練習日を重ねてきた。

展示日は 12 月 1 日から 12 月 22 日と決まった。どんどん展示日が迫ってくる。追い立てられるように皆さんも作品の制作に夢中になった。そして 11 月 28 日にようやく最終の作品が完成した。
教室に全員の作品を並べて観賞したが、皆さんには完成した喜びと充実した顔があった。

「さるびあぎゃらりー」は多くの人に見て貰った、展示会は成功だった。また協賛としてシルバーカレッジ８期生の皆さんの絵も同時に展示してくれた。

その後は、今までおしゃべりだった教室に大きな変化が見られるようになった。モチーフも変わり風景画を描く人が増えた。皆さんから次に何を描きますかと言う質問があった。

21 年 2 月の広報誌長田区版に展示の模様が紹介される。

## ボランティアについて思うこと

美８-文　松本　治司

ボランティアと言う言葉は以前にも聞いたことがあるような気がするが、はっきり意識したのは阪神淡路大震災後のことだった。

私も長田で被災して、西神南の仮設住宅で約一年間不自由な生活を体験したが、その時多くのボランティアの人達から暖かい支援を受けた。北は北海道・南は九州まで、大勢の人達がボランティア活動に参加してくれた。

震災当時、まだ若かった私はそのボランティア活動に感動し、いつの間にか私自信その人達の仲間となってボランティア活動を始めていた。そんな事もあって仮設住宅で自治会長に推され更に忙しい日が続いた。テレビにも出て仮設住宅の現状を訴えた。その時初めてボランティアと言う意味を再確認して、更にその必要性を痛感した。

しかし、地道にボランティア活動をしている人達に世間を冷たかった。有名な歌手が三宮方面で慰問訪問をして大勢の前で歌ったと言って新聞が大きく取り上げた。しかし、その時私達の仮設に若い女性歌手が慰問に来てくれた。遠慮がちに「歌を唄わして下さい」と言ってわたしの所へ来た。ビクター所属の現役の歌手だった。

250 人の住民の半分の人達が「ふれあいセンター」に集まった。その歌手は私服ではなく舞台衣装に着替えて小さな舞台に立った。そして歌った。頑張ってね・・と言いながら皆さんと握手をしながら 10 曲ほど歌ってくれた。

仮設の皆さんが泣いた。歌手も泣いた。私はその一部始終を録画して、コメントを副えて新聞社に掲載を依頼したが、結局新聞に載ることはなかった。

以前は「ボランティアをしています」と言うと「えらいね」と皆さんが言って感心した。しかし、

（次ページに続く）

（前ページから続く）
ボランティア活動も変わってきた。自己満足の活動を展開するよりも、もう少し社会性、公共性に重点をおいた立場でボランティアをすべきだと言う人もいる。また無償だったボランティア活動も有償性になりつつあり。1998 年にＮＰＯ法人法が施行され、さらにその形態が変貌してきて、最近では収益性を追求するＮＰＯ法人も増えてきた。

ボランティア活動自体、行政の保護下に置かれる時代が来たような気がする。

しかし、個人個人の地道な活動が本当のボランティアではないでしょうか。

共に笑い、友に泣く、そして少しの間でも幸せな時を皆さんと共有出来たら有り難いと思う。

## 季節の草花　⑮　　ツクシ（スギナの胞子茎）

生８－文　　久保　知彦

3 月から 4 月頃、野原、土手、田んぼの畦など日当たりの良いところに生えてくるおなじみの植物ですが、これがシダの仲間とはご存知ない方が多いようです。

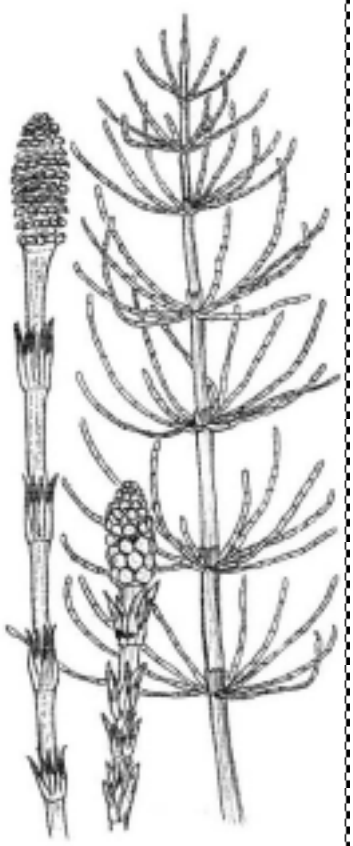
シダといっても、ワラビやウラジロとは違って、古いタイプのトクサ科の植物です。

春先、これが出てくると、ザルにいっぱい摘んできて、はかま（褐色の退化した輪生葉）を取り、おひたし・ゴマ和え・白和え・味噌汁の具などにして食べたものです。

シダには、葉の裏に胞子嚢がありここで胞子が作られるタイプのもの（ワラビ・ベニシダなど）と、本体とは別に胞子茎を作るタイプのもの（クサソテツ・イヌガンソクなど）があり、スギナは後者になります。

「つくしんぼ」とか「つくしの坊や」と呼ばれて愛嬌ものですが、茎の先に胞子穂をつけ、ここで作られた胞子が飛び出して行きます。

夏になると全く外見の違う栄養茎（スギナ）がのびて来ます。節ごとに関節のある棒状の葉が輪状にでてきます。これが杉の葉に似ていることから、この名がつきました。厄介な雑草でもあります。



## すますます ADL 体操と中国健康体操体験＋かえっこバザール

生 12-須　奥田弘子

11 月 30 日、須磨一の谷プラザに子供達の笑顔が集まりました。

我々須磨区会は受付担当で、4 人が交代でいたしました。遠方からも次々に、親子連れで集まって下さいました。

受付の後は、皆様と一緒に参加・体験させて頂きました。ユーモアたっぷりのご指導で、水戸黄門の歌に合わせながらビッグお手玉を使って楽しく体操したり、中国健康体操を体験しました。

食生活のお話も絵を見ながら分かりやすく説明して頂き、皆様も熱心に聞いていました。

午後は昔遊びコーナーで、折り紙とあやとりです。「おばあちゃんスゴイ！」と孫達を驚かせたくて、覚えるまで何回も教えて頂きました。もう孫対策は、十分 OK です。帰りに“おもちゃのかえっこバザール”をのぞきますと、神戸女子大の学生さん達の協力で、とっても楽しそう。子供達の顔がいきいきと輝いていました。孫達が近くにいたら連れてきたのに・・・と思いながら帰りました。

かえっこ

中国健康体操

# 北区会

## “わ”北区会親睦 GG 大会

北区会 副会長（行事担当）牧田　譲

H20 年 11 月 17 日(月)神戸市北区しあわせの村「球技場」に役員たち 8 時 30 分集合で会場の準備を行い、9 時からの受付で会員が集まりました。昨日の雨も上がり曇り一時晴れの天候で 45 名が集合していただき、12 チームが 12 ホール 2 ラウンドでプレイしました。

結果は岩槻　正義さんが 51 打で優勝されました。すぐ側のレストラン「アミーゴ」で昼食会と表彰式を行い、“わ”本部の加藤理事長も挨拶をいただきました。準備は大変でしたが有意義な親睦 GG 大会でした。

8 月から月 1 回の実行委員会で詳細を決定しました。前区会長柳田さんの昨年度の資料が PC に保存されており大変役立ちました。今年の諸資料も引き継げるように保存しました。

諸資料の印刷、はがき回答者への情報伝達を“わ”情報誌を利用させていただいたので、それらの同封作業手伝い、“わ”本部からの用具の借用など、担当の方々の献身的努力で無事に終わりました。ブロック連絡委員、実行委員の皆さん、大会当日の委員の皆さんご苦労さまでした。

北区会 365 名に葉書と E メールで案内を差し上げましたが、160 名の方は無回答でした。
今後の検討事項だと思います。
ブロック連絡委員、実行委員の皆さん、ご苦労さまでした。

バーディ狙い

懇親会での成績発表

# 須磨区会

## 須磨海岸清掃に参加して

生 12 - 須　大西　かね

グループ「わ」須磨部会は須磨海岸清掃活動をはじめて 10 年になるそうです。恒例の須磨海岸清掃に 7 月 21 日から初めて参加しました。

松林の美しい須磨海岸　何十年ぶりに砂浜に懐かしい　きれいな砂　美しい空と海　それにも負けないぐらいの太陽、ここまでは良かった。

8 時 35 分　先輩 10 人と各自火ばしナイロン袋を持ち　「シーパル須磨」を出発。

「あった！」「ﾜｯｰ暑い」、　本心　ｸｰﾗｰの効いた部屋　車内　普段の生活とは全然違う。

水分補給をしながらただひたすら、拾う。

見た目にはきれいな砂浜なのに　砂の中に埋もれている　缶　ビン探し出す。中には割れているのもあり、危険だ！それとタバコの吸殻が非常に多いこと。

花火は条例が出来少なくなっているように見える。タバコも海岸では「吸わない」条例でも作りましょうか。

１時間弱でゴミは袋半分ぐらい入りました。

振り返ると緑の山と和田岬にあった赤灯台が「ご苦労さん」といってくれているように思えました。

夏休み中の月曜日は海岸清掃日と決め参加しました。

佐々部会長いわく「今までに女性が 2 人も参加したのは初めて」だったとか。

大先輩、生環同級生とも顔をあわせられる喜びと健康でいられる２重の喜びもでもあります。　今年も酷暑の夏、暑さ日焼け対策を充分にして、須磨海岸清掃をしようと思っています。

須磨海岸清掃を終えて記念撮影

# 西 区 会

## 諸活動順調、4ブロック制端緒、役員体制も見直し中です

西区会会長　（生 11）　茅中英一

西区会の**緒ボランティア活動**は関係会員の尽力により概ね順調に推移しています。例えば「コーロむつみ」は、12 月 13 日（土）恒例の特別養護老人ホーム「永栄園」（伊川谷町長坂）を友愛訪問し歌声を披露、デイサービスの方々と楽しい時間を過ごし交流を深めました。また「竹の台小・児童見守りパトロール」も 5 月に 500 回を超えた後も毎日続けられています。また、平成 20 年度の西区会重点施策の“近隣会員の顔が見え支え合うことを目指す”**「4 ブロック制」**は、各ブロックともコミュニケーションを良くするための様々な会合やイベントを実施しました。ただ会員の様々な事情もあり、まだ緒についたところです。今後解決すべき課題もあります。そして、当会の更なる活性化のためには、これまでの種々な経緯から今日に至っている**役員体制の見直し**も必要となり 8 月以降毎月の幹事会で検討を続けて来ました。現在の諸活動がスムーズに次世代へバトンタッチされ、新しい活動も加わり会員があまり無理せずに参加できて少しでも支え合えるような形をつくる・・これを推進出来る役員体制が整えれば良いのではないかと考えます。

今後幹事会で煮詰めて平成 21 年度の当会定期総会で決定予定ですが、基本的な考え方は下記の 3 点です。

1．新陳代謝により役員組織を活性化するため役員任期制を検討する。
2．諸活動がスムーズに継承できるよう様々なバランスを配慮した体制とする。
3．役員負担の平準化と総合力発揮のため役割分担制を導入する。

コーロむつみの老人ホームでの歌声披露

# 福 祉 部 会

## 「耳マーク」を知っていますか！！どこかで見かけたことありますか？

福 12-福　　一森美代子

私達オアシスグループは、情報ぎゃらりー第 42 号で福祉部会から、新グループとして立ち上げました。

当初は「耳マーク」をカレッジから神戸の街へ広げていきたいと、女性 5 人で「耳マーク」の設置のお願いに出かけ続けていました。

お願いに行くと、ほとんどの方が「耳マーク」を見たことがない、知らないと言われるので、**聴覚障害者の人たちが、マークが設置されていると社会参加をする上でいかに不安が和らぐかを力説します・・・**

そこで「耳マーク」の設置も大事だけれども、設置されていても「これ、何のマーク？」では話しになりません。

まずはたくさんの人に知ってもらいたいと、各自治会の掲示板に貼ってもらえるようお願いしたり、私達が常に耳マークを持参してお知り会い、お友達との寄り合いに「このマーク知ってる？」作戦も開始しました。

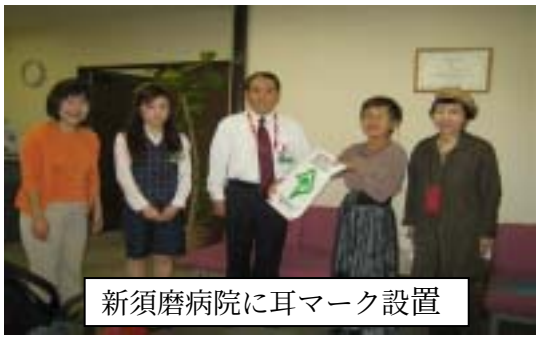
そして、神戸市障害福祉課に広報 こうべ に「耳マーク」の掲載をお願いしていたところ、**H20 年 12 月号の「広報 こうべ」障害者週間に、人権一口メモとして「耳マーク」が掲載され、**オアシスの活動としての嬉しい成果でした。

また、オアシスグループの働きかけにより、神戸市難聴者協会から「耳マーク」普及活動として、活動資金を組んでいただけました。

たくさんの人に「耳マーク」を知ってもらい、主旨を理解していただき、ともに支えあって豊かな社会にと願い、オアシスグループは活動を続けます。みなさまのご支援をお願いします。

「耳マーク」設置して頂けたところ

| | |
|---|---|
| 20/ 4 月 | みなと銀行 |
| 20/ 8 月 | 寿々女すし |
| 20/ 9 月 | 神戸空港 |
| 20/10 月 | 新須磨病院 |



新須磨病院に耳マーク設置

# 環境部会

環境部会長㈱生11期　菅田 忠志

## 生環1年生に環境教育プログラムを体験してもらいました

毎年、KSC 生環 1 年生のカリキュラムに、日頃我々環境部会が小学生の子供たちを対象に実施している「環境教育プログラム」を体験してもらう授業が組み込まれています。今年も去る 10 月 14 日にこの授業が実施されました。環境部会から、『里山グループ』『ビオトープの会』『野鳥と自然観察会』『エコ双六 KOBE』『ケナフの会』のみなさんから、日頃のイベントの内容を紹介し体験してもらいました。

この日は、午前中に里山観察、ビオトープ観察、野鳥観察、ケナフ紙すき体験を行い、午後は教室で事前に森や里山から集めておいた自然の素材を使って、“ 木の実・小枝工作 ” や “ 木の名札作り ”“ リース作り ” などへの挑戦や、 ホールでの “ エコ双六 ” など、1 年生のみなさんも童心にかえって、体験してもらい、我々がこどもたちに伝えたい「環境教育」の一端を感じ取ってもらえたものと思っています。「環境部会の活動が理解できた」「歳をとっていてもいろいろできることがあることがわかった」との感想も寄せられ、今から、あるいは卒業後は環境部会に入って頂き、我々と一緒に活動の輪を広げていただけるものと心強く感じた 1 日でした。

童心にかえって木の実工作

リースづくりにも挑戦

エコ双六にはたくさんの ECO メッセージが･･･

**在校生のみなさん “グループ わ ”に入って一緒に活動しましょう。待ってますよ～。**

## 市民参加の秋の森林浴ウォーキング 甲山森林公園で実施

春・秋に『森の仲間』が実施してきた市民公募の “ 森の魅力、森の恵みを森林浴ウォーキングを通じて感じよう ” とはじめて 3 回目。今回（11 月 6 日）は西宮市の北山緑化植物園から北山ダムを経て甲山森林公園内を歩くコースで楽しみました。

ゴールの甲山　神呪寺で

『しあわせの村開村20周記念事業』

## “市民探鳥会”を支援

平成 20 年 11 月 23 日（日）『しあわせの村 開村 20 周記念事業』の一環として村主催の “ 市民探鳥会 ” が開かれ、“グループわ”本部と環境部会『野鳥と自然観察会』の仲間 9 名が支援。高齢者から子供達まで 47 名の市民が参加し、28 種類の野鳥を観察できました。今回特に、参加者が感動したのは、堂坊池で 3 羽のカワセミが約 10 分間池の上の樹に止まったり、水面すれすれを飛翔したり、その「空飛ぶ宝石」と言われるコバルトブルーの美しい姿を堪能できたことでした。餌となる小魚が豊富な自然環境が残っているためで喜ばしいことです。

今回の探鳥コースは、芝生広場～鎮守の森～自然歩道④～白川へ出て右折～伊川の源流～テントキャンプ場～堂坊池で約 20 分間観察～芝生広場へ戻るもので、約 4KM、2 時間かけました。

カワセミ以外の野鳥は、北国からの使者のジョウビタキ、ツグミ、ベニマシコなどの冬鳥やオオタカも観察できました。また、野鳥観察の途中春に約 180 羽のヤマガラやシジュウカラが巣立った巣箱を案内し、ヒナ達が外敵等に捕食され翌春までの生存率が 10%未満と言う自然界の厳しさを参加者に説明しました。

今後も私達は野鳥観察とその保護活動を続け市民へ自然環境保護への理解を広め賛同者を増やしたく考えています。　（文責：“わ”「野鳥と自然観察会」世話人代表：茅中英一）

カレッジ情報誌 10 月号、11 月号のコラム「ボランティアの心」に第 5 回浜岡吉孝さん、第 6 回井上堅さんの紀行文が掲載されましたので紹介します。

## 伝承遊びで子らとあそぶ

濱岡　吉孝（福祉 4 期）

ゲーム遊びしか知らない今の子に，私達が子供の頃夢中になって色々な玩具を作り、それを使って時の経つのを忘れて遊んだ経験を伝えたい。そして、子らと親しく遊び互いの理解を深めたいと 4 人の仲間と活動をはじめました。…7 年 6 ヶ月を経た現在、「むかしあそび研究会」は 206 人（卒業生と在校生）を擁する会に成長し、市内の小学校・幼稚園・諸施設・NPO「わ」などの要請に応じ、活発な活動を展開しています。

この活動の中で数々の得がたい体験をしましたが、その 2～3 を述べさせて頂きます。

**◇人間関係が広まり、深くなったこと**

一つの行事を完結するには会員相互の密接な協力関係（立案・連絡・玩具の準備・役割分担・当日の有機的な活動等）を欠かすことができません。これら一連の過程を通じて 1～15 期生の縦の連携、また、それぞれの期における異コース間の人々の横の結びつきが回を追う毎に強固になっていきました。これは、この活動以前には経験のなかったことで、人間関係の広まりと深まりを大変うれしく思っています。

**◇子らの真の姿を知ることができたこと**

『今の子は…』とよく言われますが、実際に親しく接した子らは、どの子も子供らしく、素直で好奇心旺盛、遊ぶことが大好きで、子供たちの真の姿は今も昔もまったく同じという思いを抱きました。そして、日本の未来はけっして暗くない。大人が良い手本を示し、皆で大切に育てなくては、との感を深くしました。

**◇天与の恵みを授かっていること**

童心に帰り子らと夢中で遊ぶ中で、元気一杯の子らから若さと活力を贈られ続けています。私達はこれを天与の恵みと言っています。

これらの思いは 206 人の会員が活動を通じて肌で感じている最大公約数的な喜びの経験であると思います。……このほか、7 年間の活動から枚挙にいとまがないほど多くのことを学び教えられました。この活動との出合いに心から感謝している昨今です。

「ほかの遊びも教えてね。また遊ぼうね。きっとね！」

いう可愛い誘いに応え、これからも子らと遊び続けたいと思っています。

## 無理せず、気張らず、気楽に

井上　　堅（福祉 8 期）

「出会いと学びの 3 年間、新たな人生の展望を」のフレーズに惹かれて、カレッジに入学。そして混声合唱団コーロ KSC に加わり、福祉施設へ歌いに行くようになったのが、私のボランティアの始まりです。

当初は「聴いて貰う」ことが中心で、相手方は無表情・無反応の場合が多かったのが実情でした。ある時「最近の卒業式では『仰げば尊し』を歌いません。皆さんは思い出深いはずです。一緒に歌いませんか」と誘ってみたところ、歌詞カードなしで、しっかりと正確に歌えるではありませんか。そして「今日はよかった、楽しかった」という言葉と笑顔がかえってきました。共に歌うことを通して、心の触れ合いの大切さを教えられ、ボランティアのあり方を考える契機になりました。

歌の紹介も、その時代の思い出や背景を一緒にとりあげるようにしています。例えば「夕焼け小焼け」は「牛に引かれて善光寺参りの善光寺さんの鐘音をイメージして作られた曲」だとか、懐メロを歌う時は、歌手本人の映像や映画のシーンを用意する。あるいはクイズにしたり、共感できる話題を提供したり、いろいろ工夫すると、訪問先の方たちも大いに乗ってくれます。今では手話コーラスでも同じ方法を取り入れ、施設側から友愛訪問を楽しみに待って貰えるようになりました。

このような活動を 5 年続けていますが、長く続けられたのは自分の出来ることを無理せず、気張らず、気楽に活動してきたからでしょう。善意の押し付けではなく、相手が求めているニーズに合わせ、楽しいものになるように心がけると、その気持が相手にも伝わります。「ありがとう」「また来てね」の言葉は、何ものにも代えがたい、大きな喜びです。

ボランティアは、しんどいことも多いですが、喜んで貰えて自分も楽しめる活動です。ただ続けるだけではマンネリ化しますから工夫や勉強が必要です。経験や知識、得意なことや趣味を生かして「人のために出来ることがある」ということは、自分自身の「生きがい」にもなっているように思える昨今です。

## グループ“わ”継続加入のご案内

平成 20 年度も残り少なくなりましたが、来年度も引き続き加入して頂きますよう、よろしくお願いします。

なお、会費納入については、同封のご案内により、　3 月 20 日（金）までに郵便局で会費の送金手続きをしていただくよう、よろしくお願い申し上げます。

退会を希望されます場合は、事務局あてご連絡ください。（総務担当理事　高木俊雄）

## グループわ　イベントのお知らせ

### ★ 認知症を正しく理解しよう！

認知症は、85 歳以上では 3 人に 1 人がかかる病気と言われ、高齢社会では当たり前の病気になりつつあります。

認知症がどのような病気で、認知症の方にはどう接するのが良いのか、正しく理解しましょう。予防体操も教えてもらえます。

日時：平成 21 年 2 月 19 日(木)10 時～12 時
場所：須磨一ノ谷プラザ　市バス「一の谷」終点、JR、山陽電車「須磨」徒歩 10 分
受講料：無料
対象者：神戸市在住、在勤の人
定員：30 名
内容：①講座「認知症を知っていますか」
講師　西本　敬子（キャラバンメイト）
②認知症予防体操
講師　佐竹　由美（健康運動指導士）

### ★ 親子であつまれ豆腐つくり塾

へんしん、へんしん、大豆が変身するよ。
親子で豆腐つくりに挑戦します。

日時：平成 21 年 2 月 22 日(火)10 時～14 時
場所：神戸市シルバーカレッジ　調理室
受講料：無料
対象者：小学生と保護者

### ★ 親子であつまれ炭焼き体験塾と ケナフ紙すき塾

「1･17鎮魂の灯」の竹で竹炭を作ります。
ケナフの紙すきで、世界で一枚の葉書を作ります。

日時：平成２１年３月８日（日）１０時～１５時
場所：神戸市シルバーカレッジ
対象者：小学生と保護者

## シルバーカレッジ学園祭から 金３万円の寄付

11 月 21 日　KSC 第 14 回学園祭総合委員長宮崎秀造氏からグループ“わ”の活動に役立てて下さいと 30,000 円の寄進がありました。

### ★シルバーふれあい男性調理実習

男性も料理にチャレンジしましょう。
食文の卒業生が丁寧に教えてくれます。

日時：平成２１年３月２４日（火）３１日（火）
４月７日（火）
場所：神戸市シルバーカレッジ
受講料：4,000 円（３回分）
対象者：60 歳以上の男性

すべてのイベントの申し込みはグループ わ へ、
FAX 078－743－3830
お問合せ グループ わ
TEL 078－743－8101

## 編集後記

新しい年が始まりました。2008 年今年の漢字は『変』、日米の政治の変化、アメリカからの発した世界的金融恐慌、世界的な気候異変による地球温暖化問題の深刻化など、2007 年の漢字「偽」に引き続き生活に不安を覚え、良くも、悪くも変化の多かった一年でした。今年は change(変革)の年、明るい未来に希望をつなげて行きたい。

グループわ　も 10 年を経過した本年度、全会員に呼び掛け、“わ”にふさわしいロゴマークを募集して、情報ぎゃらりー44 号でお知らせしたシンボルマークを神戸市をはじめ関係団体にお知らせして、気分新たにボランティアグループとして前進をする年にしましょう。

本誌も、紙面刷新してスタートしました。今後ともよろしくご愛読下さるようお願い致します。またご意見などお寄せ下さい。（HM）